

## 1) 団地再生の成果につながった主な要因(活動)

継続した取り組み	サテライト(みどりん)利用による住民コミュニティの形成
地域ニーズの把握	緑が丘事業部の運営協議会、まちづくりワークショップなどの実施
目的の共有	住民と企業で「ビジョン委員会」を設置し、地域の課題抽出と将来像を共有
地域団体との協働	緑が丘・青山の自治会、まちづくり協議会の積極的な参画・協力
地域住民の理解	公民館・自治会活動を背景とする住民のまちづくり活動への理解、事業参加
企業市民の協力	三木市郊外型住宅団地ライフスタイル研究会の参画企業や地域の高校、関係大学との連携・協力

## 2) 団地再生におけるまちづくり成功のポイント

まちづくり活動の意識の共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 住民の目に見える取り組みを継続的に実施し関心を喚起し</li> <li>■ サテライトを核に人が集まりコミュニティを形成</li> <li>■ 必要に応じ需給関係が変化する交流型互助社会の形成</li> </ul>
働きかけによる担い手の発掘	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地域住民、団体、企業、大学等と密接に連携し担い手を発掘</li> <li>■ サテライトを核に関係する者の担い手ネットワークを形成</li> </ul>
まちづくり活動の共創	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地域固有のニーズを把握し市民と企業市民が連携協力して必要なサービスを創出・提供</li> <li>■ 持続可能なまちづくりの主体は「市民」であり「企業市民」</li> </ul>

## 4 健康管理事業

健康ステーション事業及び健幸クラブ事業は、令和3年3月末をもって終了しています。

## 5 サテライト運営事業

「緑が丘プラザみどりん」「おおきなきリビングラボ」は、令和3年3月末をもって終了しています。地域の交流は次の事業に引き継ぎます。

### 地域の人たちとの交流 おおきなきOpen Day

毎月 第2火曜日  
10:00~16:00

大麦粉のお好み焼き／布ナブキン作り／手仕事カフェ  
リュウジュセラピー体験会／絵本修理／染物体験  
オラルカードセッション 等リクエストに応じて開催

同時開催 「Xchange 服の交換会」「クラフトビール試飲会」

※詳細はブログをご覧ください [三木 おおきなき](#) [検索](#)



### 大和ハウス工業(株)のサテライト

緑が丘町東1丁目で整備を進めています。オープンできるようになれば改めてお知らせします。

## 令和3年度 三木市生涯活躍のまち推進機構の取り組み

推進機構の理事会を3月23日に開催、令和3年度の事業計画と予算が承認されました。主な内容は以下のとおりです。また、推進機構では三木市の支援終了後(令和4年度から)の方向性の検討を進めます。

### 1 緑が丘事業部

緑が丘町でのモデル事業が終了したことに伴い、緑が丘事業部は本年6月末で廃止します。推進機構の業務は7月から三木市役所内で行うこととなります。なお、6月末まではクラウドオフィス三木の事務所となります。



### 2 クラウドソーシング事業

クラウドソーシングチーム「Team STACK」は、自立をめざし営業の強化、コールセンターなど新たなジャンルの開拓で収入の確保、管理体制の強化を進めます。

- 自治会・まちづくり協議会のホームページの制作
- 美囊川の黒滝に伝わる民話「万八たぬきとお万きつね」の紙芝居の制作などに加え、デザイン受注の強化
- 多肉植物の販売など、しごとの幅を広げていきます

▶STACK



▶みどりんの多肉



▶「万八たぬきとお万きつね」の紙芝居



(参考)

### 三木市の生涯活躍のまちの方針

生涯活躍のまちづくりにおける推進機構の役割は、今後三木市において事業の選択と集中を行い市の担当部署に引継ぎ、市の事業として実施されます。

#### 市の補助金及び職員派遣

令和3年度で終了。

#### 推進機構の事務所(緑が丘事業部廃止)

三木市役所内に移転。

#### クラウドソーシング事業

令和3年度は推進機構が運営。自立を視野に入れ今後の運営形態を検討。

#### 健康管理事業・サテライト運営事業

健康増進・介護予防は市が実施。みどりんは廃止。

#### 移住定住促進事業・リビングラボ事業・域学連携事業

官民連携を取り入れ、市の各事業で取り組む。

[発行]

(一社)三木市生涯活躍のまち推進機構 緑が丘事業部  
〒673-0533 三木市緑が丘町東1丁目1-47

TEL 0794-70-7155

HP <https://stack-miki.com>

HP



Facebook



### 3 域学連携・リビングラボ事業

推進機構では、関西学院大学、神戸大学、大阪大学、兵庫県立大学、関西国際大学などの大学や三木北高校をはじめ市内の高校と連携・協力して、団地再生の手法やリビングラボについて調査・研究や実証事業を行ってきました。令和3年度は、これまで取り組んできた実証事業の中で「くるくる回るショップ」など継続が必要なものについて実施します。

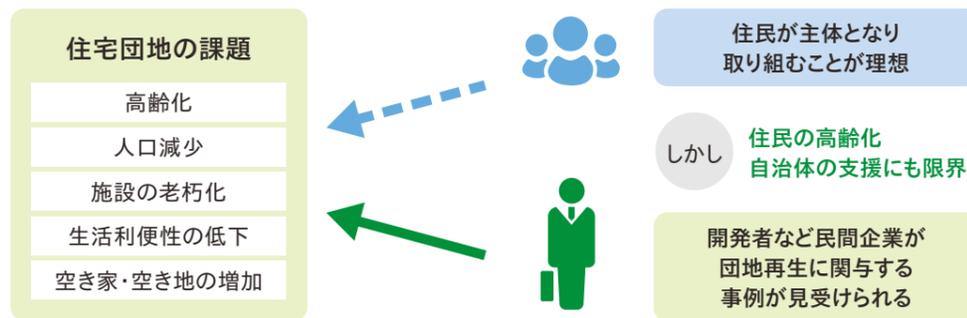
#### まちづくり調査研究報告

昨年、皆様にご協力いただき大阪大学が「郊外住宅団地における産官学連携によるまちづくり活動に対する住民の意識・関与に関する研究」の一環で、住民の住環境とまちづくりについてのアンケート調査を行いました。推進機構は、アンケートのデータ入力やインタビューアの紹介を行いました。この調査は、今後のまちづくり活動に大変参考となりますので簡単に報告します。

#### 調査の概要

対象	緑が丘町、志染町青山地区の住宅の世帯主又は配偶者
期間	令和2年11月24日～12月4日
配布	調査票を全戸にポストイング 回収 郵送・みどりんに持参
配布数	5,991件
回収率	31.4% 1880件（緑が丘:1189件、青山653件、不明38件）

#### 調査の目的



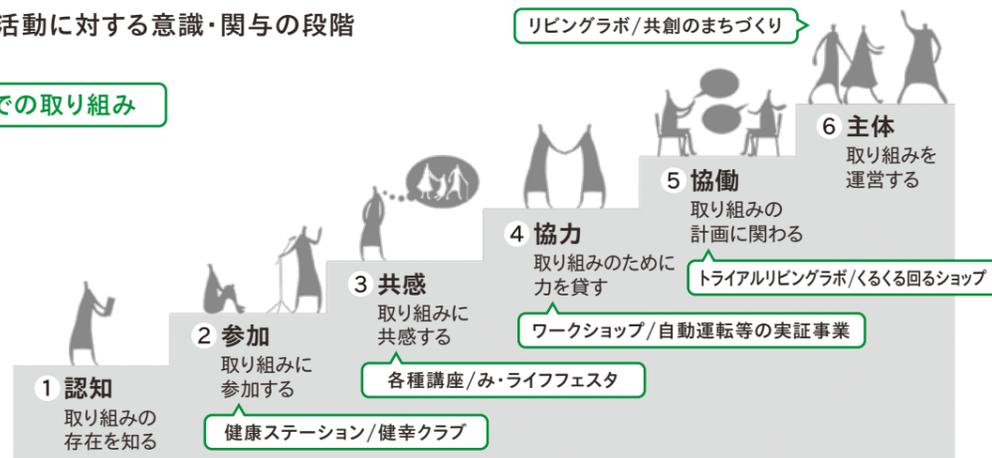
▶ 産官学民が連携して、地域の課題解決や魅力づくりに向けた取り組みを持続的に行うことが重要

#### 研究目的

産官学の連携によるまちづくり活動に対する住民の意識・関与（浸透）の程度とその影響要因を明らかにする

#### 住民のまちづくり活動に対する意識・関与の段階

##### サテライト拠点での取り組み



#### 総括

今回の調査結果の全体から、住民が産官学連携のまちづくり活動への参加のステップを上げるためには以下の点が重要であることがわかりました。

- 1 取組が、身近な場所で継続的に実施され、その内容は住民のニーズと一致すること
- 2 住民が、地域の将来について考え、地域活動に積極的に参加し、顔見知りを多くすること
- 3 参加のステップを上げるには、人からの直接的な働きかけが効果的であること

#### 提言

- 1 **まちづくり活動の意識の共有**
  - 住民の目に見える取り組みを継続的に実施
  - 取り組み内容を考える段階から住民と一緒に
- 2 **働きかけによる担い手の発掘**
  - 地域団体など既存のコミュニティとの協働
  - まちづくり活動の実施主体と住民個人との関係構築に基づく声かけ

#### アンケート結果の抜粋

これまで実施した住民交流の場（みどりんなど）、健康増進活動、まちづくりワークショップ、新たな働く場（クラウド・農業就労）、移動サービス（自動運転）、情報発信など6つに累計化した取り組みに対する認知・参加・共感・協力意欲について。

##### 認知（知っている取り組みがひとつ以上ある回答者の割合）

緑が丘町地区	65%	4年間にわたり、まちづくり（団地再生）事業として実施した活動について、「何も知らない」という人が、緑が丘約35%、青山約50%いる。
青山地区	50%	
全体	60%	

##### 参加（参加・利用したことのある取り組みがひとつ以上ある回答者の割合）

緑が丘町地区	34%	「参加なし」とする人が、緑が丘約66%、青山約84%いる。参加した人の多くは、サテライトの利用、健康増進。参加のきっかけは「自治会からの声掛け」が多い。
青山地区	16%	
全体	27%	

##### 共感（地域のために重要だと感じる取り組みがひとつ以上ある回答者の割合）

緑が丘町地区	94%	生涯活躍のまちづくり活動への共感は、緑が丘、青山ともに高い。中でも、共感4割以上の人が交流の場の確保、健康増進、地域の情報発信に共感している。
青山地区	95%	
全体	96%	

##### 協力意欲（まちのために参加したい・協力できると感じる取り組みがひとつ以上ある回答者の割合）

緑が丘町地区	75%	まちづくり活動への協力意欲は、緑が丘、青山ともに高い。中でも、住民交流の場の確保、健康増進活動への参加意欲が高い人が多い。
青山地区	73%	
全体	75%	

調査実施機関及び問い合わせ先：大阪大学大学院 工学研究科 建築・都市人間工学領域  
担当：伊丹 電話 06-6879-7649(3月末まで) 06-6879-7648(4月以降)